

「褒め上手」は「育て上手」、その立ち居振る舞いとは…

5月24日(火)、運天秀紀先生が授業を公開しました(2年10組)。本時の自立活動は、見る・聞く・想像する力の育成を目指して、生徒が級友と共に学習活動をやりぬく力、見通す力を高めることが目的です(表1)。研修の一環で佐敷中や大里中など、多くの先生が参観する公開授業でしたが、生徒は緊張している様子もなく、一生懸命学習に取り組んでいました。

表1 本時の自立活動(6区分27項目)

◆心理的な安定 自立活動2一(2)(3)

(2) 状況の理解と変化への対応

(3) 学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

授業は、①手作りの新聞棒でキャッチボール(眼と手の供応運動トレーニング)、②熟語トランプゲーム(視知覚認知トレーニング)、③生徒が自分自身の目標を設定して学習に取り組む、という流れです(右図①～③)。

運天先生は、一連の活動の中で、「すごい！初めて10回連続成功できたね！」、「すごい！こんなに発見できたの!？」と、生徒の良い所や頑張りをたくさん見つけ、認め、さりげなく褒めており、生徒は嬉しそうに活動し、教室が温かい笑顔に包まれているようでした。

また、トレーニング後は、「あなたのタイミングで、必要な学習を始めていいですよ」と声をかけ、生徒は社会のワークに取り組んだり、理科の動画を見たりし、自身の目標に向かって、それぞれの学習に励む姿が見られました。

本時の授業のように、「個別最適な学び」が全生徒に求められる時代がすぐそこまで来ている気がします。**生徒一人ひとりの特性を見極め、それを認め、生かしていく、全校生徒830名一人ひとりが輝ける学校**を、全職員で目指していきたいです。

先生インタビュー「授業を参観してどうでしたか？」

(山田涼子先生) これこそまさに個に応じた指導でした。授業の理想型を見ることができたので、自身の授業にも生かしていきたいです。



忙しい中でも、何気なく生徒一人ひとりを観察し、生徒の「イイね」を見つけ、さりげなく褒めたい。

生徒の学習意欲や自己肯定感を高めるための手立てとして、「褒める」ことが最も大切だと思います。人は誰しも、褒められたら嬉しくなってやる気が出ますよね。どんな褒め方が効果的なのか？少しかだけ紹介させて下さい。

1. 効果的な褒め方 *結果ではなく、努力や過程を重視

- ① 爽やかにできるだけ短いフレーズで褒める、② 名前を入れて褒める、③ 成長を実感させるように褒める
- ④ 期待して褒める、⑤ 事実や準備状態を褒める

2. 褒めても伝わらない5つのケース

- ① 誰かと比べる、② 結果しか褒めない、③ やみくもに褒める
- ④ 褒めた言葉の意味がわからない、⑤ 性格を無視して褒める

ピグマリオン効果(別名：教師対効果)
「人は、期待された通りに成果を出す傾向がある」 *教育心理学